

第 78 回九州循環器撮影研究会プログラム・抄録集

テーマ 『脳卒中に対する画像診断と血管内治療』

日時：令和 4 年 3 月 5 日（土） 14:00～16:40

会場：Web オンライン形式（Microsoft Teams）

参加費：無料 先着 300 名，登録締め切り：令和 4 年 3 月 1 日（火）

事前参加登録フォーム：<https://forms.office.com/r/CMvWKY1r5Y>

14:00～14:05 開会挨拶と進行説明

14:05～14:30 『脳卒中に対する CT 画像診断について』

大分大学医学部附属病院 医療技術部放射線部門 中島 裕介 先生

14:30～14:55 『当院における急性期脳梗塞の MRI 検査』

済生会熊本病院 中央放射線部 太田 雄 先生

14:55～15:40 『脳卒中（脳血管障害）における脳血管内治療の基礎

～診療放射線技師の立場から～』

福岡大学病院 放射線部 松崎 通孝 先生

15:50～16:40 特別講演『脳卒中に対する画像診断と血管内治療』

九州大学大学院 医学研究院 脳神経外科 有村 公一 先生

『脳卒中に対する CT 画像診断について』

大分大学医学部附属病院 医療技術部放射線部門

中島 裕介 先生

当院は年間で約 23000 件の CT 撮影を行っており、その内、隣接する高度救急救命センターでは約 2000 件の撮影を行っている。中でも外傷を含む頭部 CT の占める割合は高く、特に Stroke の代表である脳出血や脳梗塞の疑いについては、診断から治療へのスピードを要求される主要なモダリティの一つとして位置づけられている。また近年の CT 装置や撮影法の進歩によって、その重要性は今後益々高くなることが期待されている。

本発表では当院の CT 部門における、脳卒中患者に対する対応の流れや撮影方法、脳血管内治療への取り組みについて紹介する。

『当院における急性期脳梗塞の MRI 検査』

済生会熊本病院 中央放射線部

太田 雄 先生

当院では 2006 年から当直 2 名体制となり、24 時間 365 日いつでも頭部 MRI 検査を施行することが可能となった。2005 年 10 月に rt-PA（アルテプラゼ）静注療法が承認され、特に緊急の頭部 MRI 検査が増加した。今でも多いときは 1 日に数件のコードストローク対応をする場面もある。

頭部 MRI 検査では造影剤を使用せずに、比較的簡単に急性期の梗塞部を識別することができ、また頭蓋内や頸部などの血管も描出することが可能であるため、MRI 検査は有用であるといわれている。

今回は当院の脳梗塞に対する MRI 検査の役割、運用方法、検査内容、MRI の画像について紹介していく。

『脳卒中（脳血管障害）における脳血管内治療の基礎～診療放射線技師の立場から～』

福岡大学病院 放射線部

松崎 通孝 先生

脳卒中（脳血管障害）における血管内治療は、大きく分けて、急性期脳梗塞などの閉塞血管に対する治療と、クモ膜下出血などの動脈瘤に対する治療の2種類に分けられる。急性期脳梗塞に対する血管内治療は、血栓吸引やステントリトリーバーなどの血栓回収カテーテルを用いて閉塞血管を再開通させます。また、クモ膜下出血に対する血管内治療は、破裂動脈瘤に対しコイル塞栓術を行い、動脈瘤からの出血を止めます。これらの血管内治療に対して診療放射線技師として知っておきたい基本的な知識や技術、工夫などを私なりに考えてお話しする。

特別講演『脳卒中に対する画像診断と血管内治療』

九州大学大学院 医学研究院 脳神経外科

有村 公一 先生

脳卒中（脳血管障害）に対する血管内治療の発展はめざましく、数年前の知識が通用しないことも多く常にブラッシュアップを要するホットな領域である。2015年に脳梗塞に対するステントリトリーバーを用いた血栓回収療法の有効性が証明されたばかりだが、ここ数年でその適応は大きく広がり、また治療適応に関する画像診断技術も大きな発展を遂げている。また動脈瘤などの出血性脳血管障害に対する治療も様々なデバイス・テクニックが次々と登場し、分岐部動脈瘤や巨大動脈瘤などの高難度病変に対しても低侵襲かつ安全な治療が可能になってきている。本講演では脳卒中（脳血管障害）に対する最新の血管内治療について紹介し、またそれに関して必要な画像診断について解説する。